

令和7年度 授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	浦安市立浦安中学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 学校での授業は意欲的に参加し、内容については授業内で理解できていると感じている生徒が多い。一方で、学習内容が定着していない生徒もいるため、反復学習（復習）が十分ではないと考えられる。
- 家庭学習が平日に30分以下、または全く行っていない生徒の割合が大きい一方で、通塾しながら熱心に家庭学習に取り組む生徒も多いため、学力の二極化が発生していると考えられる。そのため、習熟度別の個に応じた授業展開が必要である。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- <研究仮説>①自身の到達度に応じて達成目標を設定し、学習用ICTコンテンツを用いて学習の調整・評価を行うことで、学力が向上するだろう。
- ②習熟度別少人数授業を通し、「個別最適な学び」の考えに基づいた協働的な授業展開を実施することで、「主体的・対話的で深い学び」が実現し、学習意欲が向上するであろう。

3. 具体的な実践

- ①学習用ICTコンテンツ（ドリルパーク）を用いた、個別最適な学習教材の提供および実施
⇒毎授業冒頭5分間にGIGA端末を用いてドリルを実施（1学年のみ）
- ②加配教員を活用した習熟度別少人数授業の実施
⇒1学年6クラスを計4名の教員で全授業習熟度別少人数授業を実施
- ③検証授業の実施（年間2回）
⇒個別最適な学びをテーマに検証授業を実施
- ④生徒の学習に関する意識調査アンケートの実施（年間2回・1学年で実施）
⇒少人数授業を実施前と実施後にアンケートを実施し、意識の変容を調査する

4. 成果

- 毎授業の冒頭5分間の主体的な学習を定着することができた。アンケートの結果より、半数以上となる64%の生徒が効果を実感できた。
- 「予習のため」「復習のため」「定期テスト対策のため」など、各々が目標や課題をもって自発的に教材を選択しコンテンツを活用することができたことがアンケートよりうかがえた。
- 習熟度に応じて、適切にクラス分け及び教材の精選を行うことができた。その結果、生徒が授業で「わかるようになった」「楽しくなった」と感じるようになった生徒が多数を占めている。
- 検証授業で、「見いだす」⇒「自分で取り組む」⇒「広げ深める」⇒「まとめあげる」の実践モデルプログラムを取り入れた展開を実施できた。特に、「広げ深める」の中で「コース別課題解決学習」を取り入れたことで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現することができた。

◆担当指導主事から

- 生徒の実態を基に、少人数指導などの場の設定や問題の難易度、発問、教材を工夫し、徹底して指導の個別化を図り、一人一人の生徒に寄り添った授業を行うことができていた。また、行った授業の手立てに対して数学科教員全員で振り返り、改善し、よりよい授業を目指すというよいサイクルができていた。
- 指導の個別化だけでなく、学習の個性化についても更に試行を重ね、研究を進めていって欲しい。